



大和川定期預金を通じた 地域の「心」の活性化に向けて

大和信用金庫

大和信用金庫について

■ 企業紹介

- ・本店：奈良県桜井市桜井281－11
- ・昭和23年創立　平成20年に創立60周年を迎えた。
- ・奈良盆地を中心に、20店舗を擁する。
- ・23年3月末　預金量4,674億円　貸出金1,872億円

■ 桜井市の歴史的背景など

- ・大和民族が古代ヤマト王権を建てた、日本史の第1ページを飾る日本文化発祥の地。
- ・邪馬台国卑弥呼の遺跡!?「纏向遺跡」「箸墓古墳」
- ・大化の改新の舞台「談山神社」
- ・吉野杉・桧をブランドとした材木業、三輪そうめん

■ CSR(企業の社会的責任)としての意識

- ・平成15年「男女雇用均等推進企業　奈良労働局長賞優良賞」受賞
- ・平成20年「県社員・シャイン職場づくり推進企業第1回知事表彰」受賞



大和川について

■ 沿革

- ・大和高原を源流とし、奈良盆地のほぼ全域を流域とし、大阪平野を西に横切って大阪湾に注ぐ、全長68キロメートルの一級河川。

■ 歴史の中で

- ・推古16年(608年)遣隋使・小野妹子を送って来朝した裴世清ら一行が、難波津から船で大和川をさかのぼり、三輪山麓の海石榴市(つばいち)に上陸、飛鳥の宮に至って、1400年余り。

■ 水質の悪化

- ・全国一級河川の中で、水質の悪さ → 平成17年、18年、19年、**3年連続ワーストワン**
- ・原因→流域人口の増加、高度経済成長における工場進出、年間降水量が少ない
最大の要因は、家庭からの生活排水(要因の80%)といわれている。

■ 現状の水質と地域住民の思い

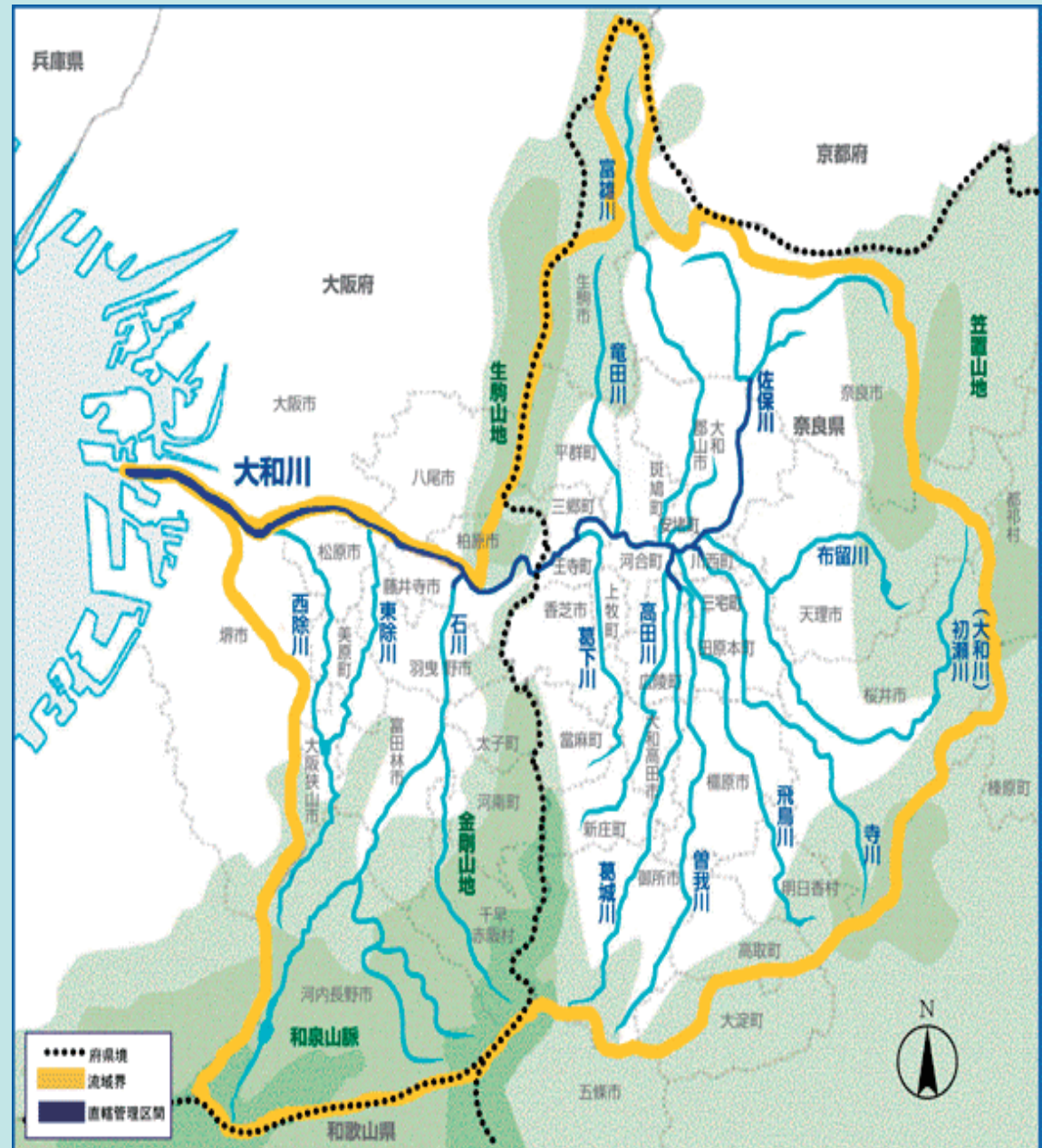
- ・大和川＝汚い、臭い 反面、大和川の清流を取り戻そうという活動も広まっている。
- ・年々、水質は改善されている。

(平成18年及び19年のBOD値＝4.7mg/ℓ 20年＝3.7 mg/ℓ⇒**全国ワーストワン脱却!**

21年＝3.2 mg/ℓ で全国ワースト3位 22年＝2.8 mg/ℓ で全国ワースト4位)



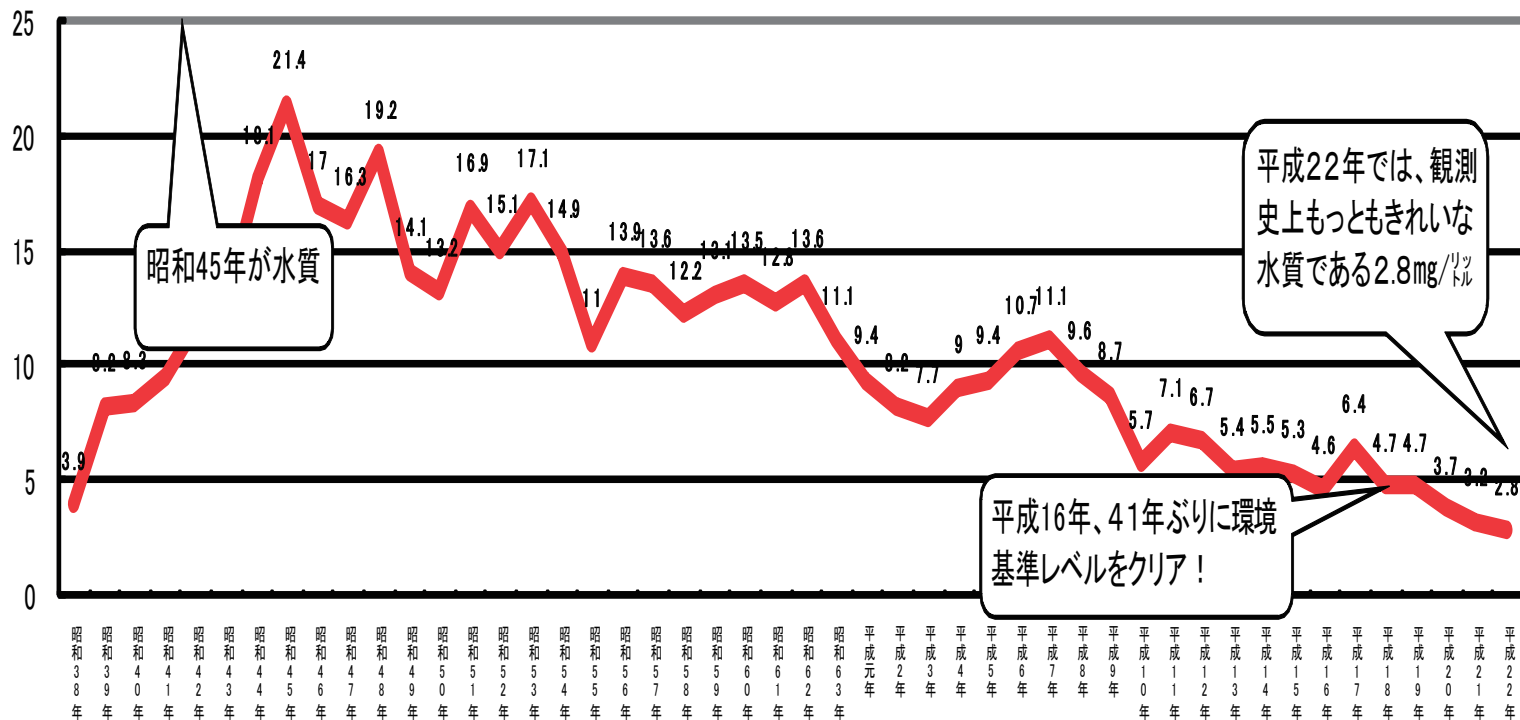
大和川の流域



大和川水質の経年変化グラフ

BOD(mg/L)

大和川の水質は年々改善されています。
(大和川水質の経年変動グラフ)



BOD値とは＝生物化学的酸素要求量 (Biochemical Oxygen Demand) のこと。主に河川や下水、排水の汚れを測定する数値。環境基準は5mg/リットル。

当金庫のCSR活動と大和川の関わり

■ CSR活動について

- ・信用金庫の存在意義＝地域のために、地域の発展に貢献する。
- ・平成16年12月に、CSR検討委員会設置→現在、CSR委員会
毎月、委員会開催。20年7月より各支店からCSR連絡委員を選出
- ・テーマ

『Next Generation ～未来へ～』 次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。

- ・活動内容 ⇒ 地球温暖化防止へのクールビズ・ウォームビズ、ハイブリッドカーの導入、少子化対策・子育て支援のための商品「ANGEL PLUS ONE」、「こども110番」活動、護身術セミナーの開催、小学生への金融教育、AEDの全店設置、「認知症サポーター養成講座」の受講、エコ検定の受検、奈良県ストップ温暖化推進委員の受託、マラソン大会への協賛、清掃活動、太陽光発電設備への無利子融資創設、桜井本町通り・周辺まちづくり協議会への参画など。

■ 大和川との関わり

- ・テーマに沿った商品企画を → 奈良県の環境問題における課題 ⇒ 大和川の水質改善
- ・支店網 ＝ 大和川流域
- ・「大和川生活排水対策社会実験」への参加・協力
- ・奈良県主催の「暮らしと環境フェスティバル」パネルディスカッションに出席

—

大和川定期預金の反響と成果

■ マスコミでの紹介

- ・発売当初から、新聞各紙をはじめ、テレビやラジオ等のマスメディアで紹介をいただく。

■ 環境各賞の受賞について

- ・平成19年2月 フジサンケイグループ主催「第16回地球環境大賞<フジサンケイビジネスアイ賞>」
- ・平成19年3月 三重県主催「第5回日本環境経営大賞<環境プロジェクト賞>」



- ・平成19年6月 関西広域機構主催「平成18年度関西エコオフィス奨励賞」
- ・平成19年12月 日本フィランソロピー協会主催「第5回企業フィランソロピー大賞<地域環境賞>」
- ・平成20年4月 (社)日本河川協会主催 第10回日本水大賞<奨励賞>
- ・平成20年5月 第11回 信用金庫社会貢献賞<特別賞>
- ・平成20年6月 平成20年度 奈良県環境保全功労賞
- ・平成21年2月 第1回経営者「環境力」大賞を柳田会長が受賞
- ・平成22年6月 第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト 審査委員特別賞

その他の活動について

■ 「大和川基金」による大和川源流体験ツアー

- ・第2回大和川定期預金より「大和川基金」を組成
 - ⇒ 募集預金残高の0.01%を金庫から出捐 + 金庫役職員の自由意志による出捐
- ・大和川の再生・水環境の改善に向けた取組みに対して、資金を拠出
- ・奈良NPOセンターとの連携により、子どもたちを中心に大和川の源流体験ツアーを過去5回実施
- ・その他、大和川水質改善啓発ポスターコンクール、大和川再生フォーラムを開催
- ・今後も、大和川サミットのような啓発活動を通じて、大和川の再生を目指す。

■ 大和川生活排水対策社会実験への協力

- ・1週間程度の社会実験期間を定め、その前後での水質の改善度を確認。
- ・各家庭での生活排水を抑えてもらうよう呼び掛ける。

■ 大和川一斉清掃への参加

- ・地域の清掃活動に参加し、多くの職員が汗を流した。

■ 大和川市民ネットワークなどへの参加

- ・行政と民間、奈良県（上流）と大阪府（下流）、企業と市民（NPO）、大学など、各分野間の連携を図るべく、市民が中心となってネットワークを構築する。東京、綾瀬川水質啓善ネットワークとの交流も
当金庫 → 奈良県の企業代表として、ネットワーク副代表に就任
- ・奈良県内での「大和川清流復活ネットワーク」にも参画



地域への想い

■ 地域金融機関ならではの取り組み

- ・大和川の水質改善に向けた取り組みの実践を呼び掛けることにより、地域と一体となり、地域の人と共に、活動の輪を拡げている。
- ・これこそ地域金融機関ならではの取り組みといえる。

■ 「大和は国のまほろば」

「大和は 国のまほろば たたなづく 青かき 山こもれる 大和し 美し」
(ヤマトタケルノミコト望郷の歌 『古事記』より。歌碑が桜井市の三輪山麓に建立)

「『大和は国のまほろば』と詠われているように、日本のふるさとです。国のまほろばである大和の国の大和川がきれいになるということは、日本がきれいになるということではないかと思います。」

(テレビのインタビューでの柳田会長の言葉)

この想いが地域に拡がれば、と願っています。



「つながり」の拡大から、地域の活性化へ

■ 経済の変質 ～拡大発展から、縮小均衡へ～

高度経済成長期 → 人口減少・少子高齢化 → 経済規模の拡大鈍化

■ 経済発展で失われてきたもの

環境破壊 地域社会における人の「つながり」 失われた10年

■ 地域の環境を見つめ直す機会に

「大和川」の実態認識 → 身近な環境問題への関心 子から親へ

■ 人々の「つながり」を強め、地域活性化へ

「川は人の心を映す鏡」 清掃活動で地域の方々と汗を流す

全国信用金庫協会の3カ年計画の理念→「信用金庫が持つ『つなぐ力』をさらに進化させ、会員をはじめ地域の様々な主体との連携を一段と強化し、地域の持続的な発展を目指す。」

様々な「つながり」の拡大から、地域の心の活性化へ